FM76.2 RADIO3 SENDAI, JAPAN × 虹のさかなプロダクション

R8年度 地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業
協働実践助成｜中間報告

日常のつながりを、有事の共助へ。

ラジオと音楽(アート)でつながる「日常防災」ネットワーク

— 世代や国を越えて育む包括的な地域コミュニティ —

(株)仙台シティエフエム × (一社)虹のさかなプロダクション



01 事業実施団体について

事業実施団体の概要

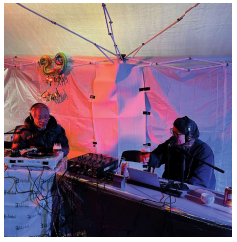
(株)仙台シティエフエム

団体の活動目的

地域に根ざした情報の発信とコミュニティの形成を通じて、仙台市とその周辺エリアの市民生活の向上に貢献する。
街のラジオ局として地域の「第3のあそび場」となることを目指す。

これまでの取り組み

ラジオ(音声コンテンツ)／地域イベント事業等





(一社)虹のさかなプロダクション

団体の活動目的

「音楽」を主体とした文化芸術を通して教育、福祉、社会と連携し、音楽や芸術文化をコーディネートする。
音楽・芸術の持つ力で人と人を繋ぎ、多くの人々を笑顔にすることを目指す。

これまでの取り組み

芸術公演・施設訪問コンサート・イベント事業等





02 R8年度事業の実施内容　　課題の把握・事業の目的

課題①
若者・働き盛り世代と地域との接点

従来の地域組織だけでは届きにくい、
若者・働き盛り層に対して、
既存の枠組みを補完し日常からつながる
新たなネットワークをつくることが
災害時の共助につながる。

課題②
日常の交流が災害時の力になる

外国籍住民や障がいのある方など、
年齢・国籍・障がいの有無を越えて、
平時から顔の見える関係を築くことが、
災害時の共助につながる。

目指す姿

ラジオの発信力と音楽・アートの力を掛け合わせ、楽しさを入口に、
多様な人が日常から顔の見える関係性を築く。
誰もが関われる包括的な地域コミュニティを育て、
そのつながりを、災害時に支え合える「共助ネットワーク」へ。

02 R8年度事業の実施内容

R8年度事業の目標

①新たな「共助」ネットワークの形成

16回以上

協働イベント

延べ5,000人
39歳以下30%以上

若年層・子育て層の自発的な参加を促し、地域との継続的なつながりをつくる

②包括的なコミュニティ形成

年8回

通期イベント

既存イベントへの
複数回の参画

多様な人が関わる実践を重ね、得られた知見を愛宕橋での場づくりへ還元する。

③ラジオを活用した地域基盤づくり

ラジオ

平時と有事をつなぐ軸

参加者・地域の人が
発信者になる機会

イベント参加者が「地域の一員」として発信。平時の関係づくり⇒有事の共助へ。

**イベントで出会い、地域でつながり、ラジオで声を届ける。
その日常の積み重ねを、災害時に支え合える関係へ育てる。**

02 R8年度事業の実施内容　事業の実施体制・スケジュール

愛宕橋を日常の拠点に、地下鉄沿線4エリアで年間16回の実践。
各地域で生まれた人・声・知見を、ラジオを通してつなぎ、愛宕橋へ還元する。

EVENT：地下鉄沿線4エリアで年間16回

★愛宕橋｜8回　【日常的に立ち寄れる拠点】
「この街とオープン・デイ」を中心に定例開催。
子ども・学生・若者・働き盛り世代が、日常から顔の見える関係を育む。

★六丁の目｜2回　【大型企画・実証の場】
「この街と」シリーズを開催。
音楽・ラジオ・防災を組み合わせ、新たな参加者との接点をつくる。

★八木山｜4回　【地域防災・インクルーシブ実践】
既存の地域イベントに継続参画。
多世代・多様な主体が関わる地域実践から、共助のあり方を学ぶ。

★河原町｜2回　【商店街・地域との連携】
河原町マルシェ等に参画。商店街との相互交流を通じ、愛宕橋との地域間のつながりを広げる。

5月 愛宕橋・八木山 ｜ 6月 愛宕橋 ｜ 7月 河原町 ｜ 8月 六丁の目×2 ｜ 9月 愛宕橋
10月 愛宕橋・八木山×2 ｜ 11月 八木山・愛宕橋 ｜ 12月 河原町・愛宕橋 ｜ 2月 愛宕橋 ｜ 3月 愛宕橋

※申請時点の年間スケジュール。河原町マルシェは調整により11月へ前倒し。

02 R8年度事業の実施内容　　事業の実施体制・スケジュール

RADIO：イベントと日常をラジオで循環

① 定期的な情報発信　イベントと日常をつなぐ
夕方ワイド番組内に定期コーナーを設け、参加者の声・イベントの振り返り・次回情報を継続発信。
② 参加するラジオ　地域の人が“発信者”に
イベント会場で公開収録を実施。
若者・外国籍住民等も「この街とレポーター」として参加できる機会をつくる。
③ 地域をつなぐラジオ　4エリアの知見を共有
地域関係者やSBL等を番組に招き、各地域の防災・コミュニティの実践をエリアを越えて共有する。

実施体制

（株）仙台シティエフエム：放送・SNS等による情報発信 ／ 商店街・学校・企業等との連携窓口
（一社）虹のさかなプロダクション：音楽・アートを活用した参加型コンテンツ
＋ 地域の協力主体(SBL・防災関係者 ／ SenTIA ／ 町内会・商店街 ／ 学生・地域住民 など)

02 R8年度事業の実施内容

使用経費　～9月30日

当初事業予算

1,847,000円

現在までの支出

1,155,660円

執行率 約63%

収入実績（自主収入・協賛等）　201,600円
報償費　881,135円｜消耗品費　95,925円
印刷製本費　66,840円｜使用料及び賃借料　70,000円
その他経費　39,880円｜旅費　800円｜
通信運搬費　1,080円

**自主収入・協賛等の確保も進み、
事業への評価・期待を実感。
一方で、連携したい地域・団体も広がっており、
今後の展開には運営基盤のさらなる充実が必要。
次年度以降は、適正な謝礼水準を確保しながら、より
多くの主体を巻き込める持続的な事業運営を目指す。**

03 R8年度事業の実施状況　　実施状況　～9月30日

愛宕橋に「ふらっと立ち寄れる日」を、3回

定例拠点としてのオープン・デイの実施状況



5/15　**60名超**

マジック／防災バッグ／楽器づくり



6/19　**約90名**

科学×防災／災害用トイレ／楽器づくり



9/18　**約40名**

消防×防災／多文化体験／SenTIA初連携

3回で延べ約200名。楽しさを入口に、防災・音楽・多文化へ。

課題：9月は来場者数が減少。天候・開催間隔・
告知方法等の影響を検証し、後半は広報と継続性を改善

03 R8年度事業の実施状況　　実施状況　～9月30日

今度は、ラジオが地域へ出ていく

既存イベントへの参画と、学生ボランティアの参加









八木山親子防災フェア

イベント全体 約1,500名／公開収録ブースを設置／
消防団・地域活動者等へインタビュー／東北工業大学学生3名が参加

河原町マルシェ

イベント全体 約1,000名／商店街・出店者の声を収録／
ラジオパーソナリティ体験／東北大学学生1名が参加

学生ボランティア 計4名　　「参加する若者」から「地域を伝える若者」へ

03 R8年度事業の実施状況

実施状況　～9月30日

この街と’26夏 — 2日間で1,500人

楽しさの中で自然に防災と出会う、大型企画

1,500 名

8/1　800名
8/2　700名

上半期最大の接点づくり

防災・音楽・アート・企業企画を一体化











「防災に来てもらう」のではなく、楽しさの中に防災を入れ込む。

03 R8年度事業の実施状況

実施状況　～9月30日

イベントで生まれた声を、ラジオで日常へ返す

レギュラーコーナー・特番・SNS・キャラクターを連動

イベント → 収録・インタビュー → **ラジオ放送** → SNS・次回告知 → 次のイベントへ

79回　この街とinfo
5/18～9/30・月～木

2回　イベント連動特番
5/31・7/26

SNS告知・学校／地域施設へのチラシ配布
10月末にも特番OA予定







7/6「ラジオさん」発表
この街と’26夏で会場演出・グッズ等に活用

03 R8年度事業の実施状況　　実施状況　～9月30日

成果と次の課題

イベント実績　**7/16回 実施済**
把握済み来場者 概算4,200名

後半9回予定／計画に沿って接点を拡大

ラジオ×イベント　**レギュラー79回**
特番2回

イベントと放送の循環を構築

防災ネットワーク　**消防・SBL・災強のすけっと等**

専門性を持つ主体との接点拡大

多様な主体との連携　**SenTIAと初連携**
八木山・河原町にも広がり

多文化分野・商店街・地域防災への展開開始

イベント参加者の声(※会場の声や反応の要約)

- **子どもと一緒に楽しみながら、遊びや音楽の中で、自然に防災について考えるきっかけになった。**
- **普段なかなか接点のない人や地域の活動を知ることができ、また参加したい。**

今後の改善点

・39歳以下30%の割合を定量的に把握できていない　・愛宕橋の来場者数に回ごとの変動がある
・外国籍住民等への直接的な参加に向け、連携をさらに深める

後半は簡易アンケート等を導入し、参加者属性を把握できる形へ改善します。

03 R8年度事業の実施状況　　今後の展開　10月1日～

「参加する人」から「関わる人」へ　　平時のつながりを、有事の共助へ。

10月
16 この街とOPD
17 八木山防災訓練
24 八木山ハロウィン

11月
3 八木山フェスタ
8 河原町マルシェ
20この街とOPD

12月
18 この街とOPD

2月
19 この街と’26冬

3月
11 この街と’26冬

① 愛宕橋
継続開催＋広報改善
参加者属性の把握

② 地域ネットワーク
八木山・河原町・SenTIA等
既存のつながりを継続的な関係へ

③ ラジオ
この街とinfo・特番・SNS・
ラジオさんを継続活用

次年度以降の展望

**愛宕橋・八木山・河原町・六丁の目をはじめ、今年度の実践を通じて生まれた、
地域・団体・人とのつながりを一過性にせず、継続的な関係へと育てていく。
その上で、各地域で得た知見や実践を活かしながら、仙台市内の新たなエリアへの展開も視野に入れ、
「日常防災」のネットワークを段階的に広げていく。**